



公益財団法人東京都歴史文化財団
アーツカウンシル東京
NPO法人ダンスアーカイヴ構想

世界で注目のダンス [舞踏] が東京のアンダーグラウンドに集結

Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13

「TOKYO REAL UNDERGROUND」 上演ラインナップ発表！



「TOKYO REAL UNDERGROUND」は、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が主催するTokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13のひとつとして、NPO法人ダンスアーカイヴ構想の企画運営により、実施します。国内外からアーティストを招き、2ヶ月にわたり東京の地下空間（アンダーグラウンド）にて公演と展示を行う本企画について、上演プログラムのラインナップ第一弾を発表します。各プログラムのチケット販売開始は、2月17日を予定しています。

1 | 企画趣旨

本企画は、「アンダーグラウンド」という言葉を、実際の地下空間と、かつて「アンガラ」と呼ばれた芸術運動のもつ「自由な精神」の二重の意味に解釈して行うプロジェクトです。とりわけ、日本発の芸術文化「舞踏／BUTOH」から影響を受けた様々な作品を、地下空間で上演します。観客は作品の鑑賞を通じて、2020年東京の知られざる空間を見出し、新たな感動に出会うこととなります。

本企画の第一の焦点は、1960年代の日本に始まり、世界に広まった身体表現「舞踏／BUTOH」を現在の視点から見直すことにあります。白塗りやゆっくりした動きといった固定のイメージを超えて、自由な発想で舞踏の本質に迫ることを試みる実験的作品を、新旧世代の混じる多彩なアーティストとともに展開し、その魅力を伝えます。これまで一般には馴染みの薄かった舞踏に新たな光をあて、より広範な層に訴えかけることを目指します。

第二の焦点は、「都市」です。舞踏が1964年の東京オリンピック直前に生まれ、急速に変貌する都市と共に発展した身体表現であることに注目し、いくつかのプログラ

ムでは、劇場やギャラリーを出て、駅舎や地下道、空き店舗などの都市空間でパフォーマンスや展示を行い、都市と身体表現の生き生きした関係を感じられるようにします。詳細は後日発表します。

特筆すべきプログラムとして、上野の旧博物館動物園駅という1930年代に作られた地下空間では、パフォーマー川口隆夫のディレクションにより、国内外よりジャンルを横断して活動する気鋭のアーティストを招き、2ヶ月連続公演を実施。世界中のダンスフェスティバルの話題を席卷する振付家トラジャル・ハレルが、大野一雄の代表作『ラ・アルヘンチーナ頌』に想を得た『ラ・アルヘンチーナ その後』を本邦初上演します。また、世界各地に根を張って地道に舞踏活動を続けてきた日本人アーティスト6名を一挙招聘し、「舞踏ディアスポラ」ガラ公演&シンポジウムを開催します。さらに、音楽家アノーニの新作『美しきものを見し人は』を世界初上演します。舞踏が持つ多様性と意外性を感じることができる多種多彩なラインナップにご注目ください。

2 | 開催概要

会期 2020年4月～6月

会場 旧博物館動物園駅、草月ホール、東京ウィメンズプラザ、
東京芸術劇場ほか都内複数箇所

開催内容

上記各会場でのダンス公演、音楽コンサート、映像上映、シンポジウムを開催。また、舞踏の歴史を振り返る貴重なアーカイブ映像や舞踏家の出演する新作メディアアート作品を展示する。展示プログラム詳細は後日発表。

チケット取り扱い

2020年2月17日(月)より各種プレイガイドにて販売予定。詳細は後日WEBサイトにて発表。



川口隆夫「大野一雄について」 photo by naoto ima

参加アーティスト

アノーニ、遠藤公義、Oguri、尾竹永子、カセキユウコ、川口隆夫、小林勇輝、酒井直之、竹之内淳志、田中トシ、アナ・リタ・テオドロ、トラジャル・ハレル、ゆみらみうまれ、吉本大輔ほか(50音順)

キュレトリアル・チーム

アーティスティック・ディレクター：川口隆夫(パフォーマー)

キュレーター： 飯名尚人(映像作家・演出家・Dance and Media Japan代表)
松岡大(舞踏家・LAND FES代表)

プロデューサー： 溝端俊夫(NPO法人ダンスアーカイヴ構想 理事長)

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
企画運営：NPO法人ダンスアーカイヴ構想



東京都



ARTS COUNCIL TOKYO

協賛：BNPパリバ・グループ

協力：大野一雄舞踏研究所、慶應義塾大学アート・センター、Dance and Media Japan、株式会社佐々木設計事務所、
有限会社かんだ、京成電鉄株式会社、首都高速道路株式会社、Fundação Calouste Gulbenkian、
一般財団法人セガサミー文化芸術財団

広報協力：ダンス プレストウキョウ

公式WEBサイト：<http://www.tokyorealunderground.net/>

Facebook：@DanceArchiveNetwork

Twitter：@dance_archive

Instagram：@dancearchivenetwork

3 | 上演ラインナップ

「舞踏ディアスポラ」ガラ公演+シンポジウム

世界各地に根を張って地道に舞踏活動を続けてきた日本人アーティストが一堂に会し、それぞれが小品を披露します。シンポジウムでは、映像を見ながら各自の活動を紹介し、文化背景の異なる人々がBUTOHをどのように受け止めているかなどを紹介。世界のBUTOHの状況について、現場からの声を聞く機会です。

[日程] 2020年5月2日(土) 15:00

[会場] 草月ホール

[出演] 遠藤公義、Oguri、カセキユウコ、竹之内淳志、田中トシ、ゆみうみうまれ (50音順)

[料金] 前売 3,000円|当日 3,500円

劇場公演

世界を飛び回り、ダンス・音楽・映像とマルチジャンルで活躍する人気アーティストたちの話題作を上演。実験芸術と縁深い草月ホールをはじめ、都内地下劇場で開催します。

尾竹永子『A Body in Fukushima』 JAPAN PREMIERE

震災後の福島に何度も滞在し、撮影を重ねた渾身の映像作品、およびソロダンスの公演。2017年ニューヨークメトロポリタン美術館で7時間半の長時間上演を敢行し、好評を博した本作を、約1時間半の特別最新バージョンで上演します。

[日程] 2020年4月28日(火) 19:00|29日(水・祝) 13:00

[会場] 東京ウィメンズプラザ ホール

[料金] 前売 3,000円|当日 3,500円



尾竹永子『A Body in Fukushima』 Photo by CPAK Studio

尾竹永子『デュエット・プロジェクト』 JAPAN PREMIERE

舞踊家に限らず、様々な文化背景をもつ人たちとの「デュエット」を試みるプロジェクト。今回は著名な自画像画家ベバリー・マカイヴァー、ラッパーのドン・クリスチャンが来日し共演。また、昨年他界した自らの母親への思いを作品に託して表現します。

[日程] 2020年5月8日(金) 19:00

[会場] 東京芸術劇場 シアターイースト

[料金] 前売 3,000円|当日 3,500円



アナ・リタ・テオドロ『Your Teacher, Please』 © Raquel Melgue

アナ・リタ・テオドロ『Your Teacher, Please』 JAPAN PREMIERE

歴史的舞踏家・大野慶人の稽古に参加した体験をもとに、舞踏を支える独自のフィロソフィーに異文化の視点から迫ります。

[日程] 2020年5月19日(火) 19:00

[会場] 東京ウィメンズプラザ ホール

[料金] 前売 3,000円|当日 3,500円

アノーニ『美しきものを見し人は』 **WORLD PREMIERE**

90年代NYアンダーグラウンドシーンでカルト的人気を博した劇団ブラック・リップスを率いた音楽家のアノーニ(アントニー・ヘガティール)が再来日。トランスジェンダーの日本人パフォーマーであるジュリア・ヤスダと、過日急逝した舞踏家・大野慶人に捧ぐ新作を世界初上演。

[日程] 2020年5月21日(木) 19:00|22日(金) 19:00

[会場] 草月ホール

[料金] 前売 3,500円|当日 4,000円

川口隆夫『大野一雄について』

伝説的舞踏家・大野一雄について、一方ではその動きを記録映像から「完全コピー」することで忠実に再現し、他方ではその世界観の大胆な再解釈を試みる話題作を、7年ぶりに東京で再演。2013年初演以来、世界38都市で上演を重ね、2016年ニューヨーク公演はベッシー賞にノミネートされました。

[日程] 2020年5月24日(日) 14:00

[会場] 草月ホール

[料金] 前売 3,500円|当日 4,000円



川口隆夫「大野一雄について」 Photo by Teijiro

詳細は後日発表

トラジャル・ハレル『気分はフランキー』

2012年に東京に滞在、リサーチを行い制作。舞踏の土方巽とコム・デ・ギャルソンの川久保玲にインスパイアされた、ダンサー3人と映像によるマルチメディア作品です。

[日程] 2020年6月上旬

[会場] 後日発表

[料金] 前売 3,000円|当日 3,500円



トラジャル・ハレル「気分はフランキー」 Photo by Laurent Philippe

詳細は後日発表

川口隆夫ディレクション企画「川口隆夫と不可視的日本人」

舞踏の代表作『土方巽と日本人 肉体の叛乱』(1968)から半世紀余、2020年現在の「日本人の身体」について考え、舞踏の新たな側面を提示する企画。観客は、舞踏が現在も発展を続ける芸術であると感じることができるでしょう。歴史的建造物の駅舎内で、国内外気鋭のアーティストによる数々の実験的パフォーマンスを展開。世界の舞踏に新風を吹き込んだ川口隆夫がディレクション。

[日程] 2020年4月17日(金)～6月5日(金) (詳細後日発表)

[会場] 旧博物館動物園駅

[出演] 川口隆夫、小林勇輝、酒井直之、アナ・リタ・テオドロ、トラジャル・ハレル、吉本大輔ほか(50音順)

[料金] 前売 2,000円|当日 2,500円

※プログラム内容は予告なく変更になることがあります。

4 | 参加アーティストプロフィール

川口隆夫 / Takao Kawaguchi

1996年よりパフォーマンスグループ「ダムタイプ」に参加。2000年よりソロ活動を開始する。2013年に初演した『大野一雄について』は世界各地で高い評価を受け、ベッシー賞ファイナリストにもノミネートされた。東京国際レズビアン&ゲイ映画祭のディレクター（1996～99）、イギリス実験映画監督デレク・ジャーマンの著書『クロマ』の翻訳（2003）、短編映画『KINGYO』（エドモンド楊監督、2009ヴェネチア映画祭正式招待作品）への出演等、その活動は多岐に渡る。

尾竹永子 / Eiko Otake

1970年代の日本で土方巽と大野一雄、ドイツでマニア・シュミエル、オランダでルカス・ホーフリンクに学ぶ。1976年にニューヨークへ拠点を移し、「エイコ・アンド・コマ」として独自の身体表現を追求。さらに2014年から始めたソロの活動『A Body in Places』で新たな注目を集めている。ホイットニー美術館、MoMA、ウォーカー・アート・センター等で継続的に作品を発表。アジア人として初めてADFアワード（2004）、ダンス・マガジン・アワード（2006）を受賞、他多数。

アノーニ / Anohni

イングランド出身、ニューヨークを拠点に活動。アントニー・アンド・ザ・ジョンソンスとして2005年にリリースした『アイ・アム・ア・バード・ナウ』で英国最高峰の音楽賞マーキュリー・プライズを受賞。各国のオーケストラ、またルー・リード、チャールズ・アトラス、マリーナ・アヴウラモヴィッチ、ビョーク等と共演する。2016年、ドイツのビーレフェルト美術館で展覧会開催、世界の珊瑚礁保護を呼びかける「Manta Ray」でオスカー賞にノミネートされた。

トラジャル・ハレル / Trajal Harrell

アメリカ出身。振付家として、The Kitchen、フェスティバル・ドートンヌ、アヴィニヨン演劇祭、インパルスダンス等、世界の主要な劇場、フェスティバルで作品を発表。また、MoMA、ニュー・ミュージアム、ポンピドゥー・センター、バービカン・センタ等の美術館でも活動を展開する。2011年度（公財）セゾン文化財団ヴィジテング・フェロー。2014年、ベッシー賞受賞。舞踏に深い関心を寄せ、『ラ・アルヘンチーナその後』『気分はフランキー』など、数多くの作品を制作。

アナ・リタ・テオドロ / Ana Rita Teodoro

ポルトガル出身。仏・アンジェ国立現代ダンスセンター（CNDC）およびパリ第8大学で、修士号を取得。その傍ら、解剖学、古生物学、哲学、気功等も学ぶ。近作に、大野慶人のワークショップに参加した経験に基づくレクチャーパフォーマンス『Your teacher, please』（2018）、日本のカワイイ文化から想を得た『FoFo』（2019）などがある。現在、仏・国立ダンスセンター（CND）アソシエイト・アーティスト。

舞踏 / BUTOHとは

戦後日本で生まれた前衛的身体表現。1920年代のドイツ・モダンダンスにその源流を持ちながら、西洋の舞踊概念を打ち破る独自の境地を切り開きました。土方巽『禁色』（1959）が最初の作品とされます。70年代後半より「BUTOH」の名で世界中に広まり、現在では世界各地で舞踏フェスティバルが催されているほか、学校教育の授業や教科書でも取り上げられています。

NPO 法人ダンスアーカイヴ構想とは

NPO 法人ダンスアーカイヴ構想は、大野一雄・大野慶人アーカイヴの芸術資産とノウハウを核に、横断的なダンスアーカイヴの意義の周知と国際ネットワークの構築を推進する団体です。舞踊文化の継承と振興に寄与することを目指し、資料の収集保存に加え、それらを活用した作品制作も企画します。また3D技術による新たなアーカイヴ手法の開発に取り組んでいます。

公式WEBサイト：<http://www.dance-archive.net/>

「Tokyo Tokyo FESTIVAL」とは

オリンピック・パラリンピックが開催される2020年の東京を文化の面から盛り上げるため、多彩な文化プログラムを展開し、芸術文化都市東京の魅力を伝える取組です。

「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13」とは

斬新で独創的な企画や、より多くの人々が参加できる企画を幅広く募り、Tokyo Tokyo FESTIVAL の中核を彩る事業として、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が実施するものです。国内外から応募のあった2,436件から選定した13の企画を、「Tokyo Tokyo FESTIVAL スペシャル13」と総称し、オリンピック・パラリンピックが開催される2020年にかけて、展開しています。

公式WEBサイト：<https://ttf-koubo.jp/>

お問い合わせ先 | NPO 法人ダンスアーカイヴ構想 (担当：西山、呉宮)

メール：press@tokyorealunderground.net

TEL：03-3582-9273 / FAX：03-3582-9275

